

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
1	目指すスタジアム像	3	これらを踏まえ、本スタジアムにおける県民利用は、「競技利用、プロスポーツの観戦、スタジアムで開催されるイベントへの参加、スタジアムの会議室及び飲食店の利用に加え、一般開放されるコンコース及び観客席、スタジアムの景観を楽しみながら隣接する広場エリア等のオープンスペースに滞在すること等を含む利用」と定義する。	2ページには「複合施設や多目的」と記されているが、現行文案では矛盾を感じる。現行文案は単なる体育施設として整備し従来から検討してきたスタジアムアーニー構想とはかけ離れている。全体的に段階的整備とうたっているが現時点から20年近くあとの整備になる計画であることははっきりと明記すべきだと考えます。また、一般的には追加投資の余白を残すということは必然的にコストアップに繋がるということを沖縄県は理解をしての計画なのでしょうか？6条提案も拝見しましたが、提案企業は投資ではなく「単に指定管理を狙ってます」的な内容でした。このような提案しか受けられない現行計画は企業からみても魅力がないということだと考えますが、再度計画を見直すお考えはあるのでしょうか？10何年もの時間と税金(調査費)を費やしてきたのですから、中途半端に整備を急がずあと数年かけて良いのではないかと考えます。GW2050構想等の経済政策とも連動するべきです。	段階整備については、P31のとおり、大規模修繕が想定される時期となる供用開始から15年を目安としております。 また、段階整備にあたっては、コスト縮減を図りながら、その手法について検討を進め、令和13年度の供用開始に向けて取り組んで参ります。
2	目指すスタジアム像	3	(3)沖縄らしいスタジアム	公開されているスタジアムパースに「沖縄らしさ」をまったく感じないのですが、なぜそのようなイメージ図を公開したのでしょうか？また、抽象的な文面は削除した方が良いと思います。建築家のアイデアの幅を狭めるものと考えます。 また、構造図案も具体的に示されていますが、そのうえでこのような意見を募集しても、本当に反映されるのかが懐疑的です。 計画ありきで、「本募集」「ワークショップ開催」「段階的な整備」を実施していっているのではないのでしょうか？	本スタジアムが沖縄観光への寄与や地域のシンボルとなる施設となるためには、「沖縄らしさ」が必要と考えております。事業の公募においては、性能発注により設計は事業者の提案によることがあります、事業者選定においてこの「沖縄らしさ」を評価に盛り込めるよう検討して参ります。
3	目指すスタジアム像	8	第1章 県民と“ともに”育てるスタジアム	意見集約・共創を謳うが、曖昧さ・方向性が欠如していると考えます。 「県民と“ともに”育てる」という言葉は魅力的ですが、「ともに育てる」「意見を集約する」というプロセスを重視しすぎると、多様な意見を吸い上げすぎて“誰にも刺さらない”“特徴のない”施設設計になってしまう恐れがあります。 具体的には、「県民」「市町村」「競技団体」「商業者」「住民」など多様なステークホルダーを“ともに”巻き込むと、それぞれの要望がバラバラで、設計・機能要件が優柔不断・中途半端な折衷案に落ち着いてしまいます。 結果として、インパクトのあるスポーツ・文化発信拠点としての差別化ができず、「ただの大きな箱」で終わるものと懸念しています(1週して昔の整備手法に戻っているような…) 到底街のシンボルになるとは思えません。 沖縄らしいスタジアムをつくるのは、沖縄県民ではなく「沖縄県民のためのスタジアムをつくるプロフェッショナル」です。	頂いたご意見については、選定事業者とも共有し、非試合日も賑わう沖縄らしいスタジアムを目指して参ります。

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
4	目指すスタジアム像	-	-	<p>Jリーグのホームゲームでも20試合足らず、JFL沖縄SV、女子サッカーなどの試合が毎週末開催されたとしても、芝の養生期間も含めると、ピッチの稼働はかなり限られると思われます。</p> <p>そこで、コンコースやスタンドを日常的に開放し、多くの方に利用していただく仕掛けを創っていただけませんか。</p> <p>例えば、平日日中は主婦やシニア世代にニーズあるもの、夕方は学生中心にストリートダンスや3×3など</p> <p>個人的に3月末の日曜日、長崎スタジアムシティに行きました。 (V・ファーレン長崎のアウェイゲーム中、長崎ヴェルカホーム戦前)</p> <p>スタジアムを開放し、ピッチ近くまでスタンドを開放し、飲食ができ、スタジアムツアーに参加していましたが、ジップラインを楽しんでいた方もいました。</p>	<p>整備計画(案)のP3において、一般開放させるコンコースや観客席等の利用も県民利用として定義しており、地域のシンボルとなり非試合日も賑わうスポーツ施設を目指して参ります。</p>
5	目指すスタジアム像	計画全般 (理念と実装の整合)	「非試合日も賑わう」「地域交流」を掲げる。	<p>現場ヒアリングでも、サッカーの場内エンタメ体験はNPB・Bリーグに比べ後発で、Jリーグも近年ようやく重点化の流れとの認識が一般的。沖縄では場内演出が抑制的な運用で体験価値が伝わりにくい場面もあるため、平時から開く公共機能(ジム／リハ室)と屋外インフラを明文化し、理念→実装の確度を高めてください。</p>	<p>整備計画(案)のP3において、一般開放されるコンコースや観客席、広場エリア当のオープンスペースへの滞在も県民利用として定義しており、非試合日も賑わうスポーツ施設を目指しております。</p> <p>賑わい創出については、様々な手法が想定されることから、事業者から幅広い提案がなされるように、事業者募集条件を検討して参ります。</p>
6	施設計画(屋根・スタンドの構造)	27	(7)スタンドの屋根 当初整備においては、固定観客席を設置するメインスタンド及びバックスタンドを覆う屋根を整備する。	<p>(7)スタンドの屋根 当初整備においては、固定観客席を設置するメインスタンド及びバックスタンドを覆う屋根を整備する。(追記)サイドスタンドについては、段階整備時の屋根設置を見据え、取り外しが容易な簡易屋根を整備する。</p> <p>理由 サポーターが応援しやすくなるため、当初整備時からサイドスタンドの屋根設置が必要と思われる。 スタジアムの雰囲気はサポーターの応援が作るところが大。相手チームとの応援合戦がスタジアムの熱気を生み、初めて観戦する観客を魅了する。サイドスタンドに屋根がなければ、沖縄の厳しい直射日光、突然のスコール等に晒され、満足な応援ができないばかりだけでなく、ゴール裏で応援したいと思う新たなサポーターの参加意欲を減衰させる。また、屋根があることで、応援の声が屋根に反響し、スタジアムの雰囲気をさらに盛り上げることができる。魅力的なスタジアムであれば、観戦者が増加し、周辺経済へのさらなる波及効果が期待できる。</p>	<p>整備計画(案)による当初整備では、メインスタンドとバックスタンドを完成形として、サイドスタンドも観戦可能な形として整備する計画です。</p>

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
7	施設計画(屋根・スタンドの構造)	10	当初整備段階においてメインスタンドとバックスタンドの構造体を完成させ、将来的な増築段階で既存スタンドの観客席の増設とサイドスタンドの構造体を増設することで、観客席を当初整備段階の1万人規模から2万人規模に段階的に拡張する計画とする。	現行文案において、当初整備段階ではJリーグのスタジアム基準で原則として定められる、全ての観客席を覆う屋根が実現していない点において、15年後の増設時に屋根が覆うことを意図していると理解するが、本年、FC琉球が条件付きでライセンス付与されたその条件を満たすものとはいえず、当初完成の5年後を待たずにFC琉球がJリーグ加盟チームとしての権利をはく奪されることを憂慮される。そのため、当初整備段階より、サイドを含む全スタンドへの屋根の設置を行なうよう修正願いたい。FC琉球は沖縄県で唯一のJリーグ加盟チームであり、未来ある子どもたちの健全な育成にとって、Jリーグチームがない地域とある地域との差は沖縄県としての大きな損失を招くことに他ならない。また、Jリーグ基準のスタジアムを完備することにより、沖縄県がもともと備えるリゾート面での魅力との組み合わせでFC琉球主催試合以外のサッカーイベントの誘致を期待することができると考える。	<p>整備計画(案)では、P45のとおり、当初整備においてもJ1基準を充足する計画としております。</p> <p>整備計画(案)による当初整備では、メインスタンドとバックスタンドを完成形として、サイドスタンドも観戦可能な形として整備する計画です。</p>
8	施設計画(屋根・スタンドの構造)	45	イ 屋根 スタジアムの屋根はJ1・J2 基準において、「新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則として屋根はすべての観客席を覆うこと」と定めがあるが、段階整備後にすべての観客席を覆うことを前提とし、当初整備でサイドスタンドに立見席等の観客席を設ける場合でも屋根の設置は必須とはしない方針でJリーグと調整を進めている。	再掲となるが、当初整備段階ではJリーグのスタジアム基準で原則として定められる、全ての観客席を覆う屋根が実現していない点において、15年後の増設時に屋根が覆うことを意図していると理解するが、本年、FC琉球が条件付きでライセンス付与されたその条件を満たすものとはいえず、当初完成の5年後を待たずにFC琉球がJリーグ加盟チームとしての権利をはく奪されることを憂慮される。当初整備段階において、サイドを含むすべての観客席を覆う屋根を実現するよう、修正を要望する。	
9	施設計画(屋根・スタンドの構造)	10	当初整備段階においてemainスタンドとバックスタンドの構造体を完成させ、将来的な増築段階で既存スタンドの観客席の増設とサイドスタンドの構造体を増設することで、観客席を当初整備段階の1万人規模から2万人規模に段階的に拡張する計画とする。	Jリーグの公表しているJリーグスタジアム基準【2025年度用】において「I. スタジアム規模等」>「4.屋根」の項目においては「新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則として屋根はすべての観客席を覆うこと」とあり、J1,J2要件では必ず具備しなければならない条件とされています。 現行文案の段階的整備では、サイドスタンド座席が屋根におおわれていません。また注釈1において「初回の大規模修繕と同時期(開業後15年目)と設定し試算」とあるため、サイドスタンドに屋根を付けないまま新設して供用を開始した場合、現在FC琉球が申請しているJ1ライセンス例外規定2「5年以内のスタジアム新設」についても適用することができなくなります。よって当初整備段階よりサイドスタンドについても屋根の設置を求めます。	<p>整備計画(案)では、P45のとおり、当初整備においてもJ1基準を充足する計画としております。</p> <p>整備計画(案)による当初整備では、emainスタンドとバックスタンドを完成形として、サイドスタンドも観戦可能な形として整備する計画です。</p>

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
10	施設計画(屋根・スタンドの構造)	11-12	当初整備でサイドスタンドに立見席等の観客席を設ける場合でも屋根の設置は必須とはしない方針であり、いずれもJリーグと調整中である。	当初整備1万人規模でも、両ゴール裏サイドスタンドを全面覆うような屋根を付けて、沖縄の強い日差しや雨から護り、観戦環境を整えていただけないでしょうか。 イメージ図や断面図からすると、ほとんど覆われていないように見えます。	整備計画(案)による当初整備では、メインスタンドとバックスタンドを完成形として、サイドスタンドも観戦可能な形として整備する計画です。
11	施設計画(屋根・スタンドの構造)	45	イ 屋根 スタジアムの屋根はJ1・J2 基準において、「新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則として屋根はすべての観客席を覆うこと」と定めがあるが、段階整備後にすべての観客席を覆うことを前提とし、当初整備でサイドスタンドに立見席等の観客席を設ける場合でも屋根の設置は必須とはしない方針でJリーグと調整を進めている。	段階整備をするから屋根を必須としない方向で調整を進めるのではなく、最初から屋根の整備を行うことを希望します。 スタジアムの要件ももちろんですが、屋根とスタンドを付けないことによる音の「抜け」で近隣の住宅に騒音被害が発生しかねません。スポーツイベントだけでなく、音楽イベントでも同様の懸念が考えられます。このままですと収益計画にも影響があると考えます。	整備計画(案)による当初整備では、emainスタンドとバックスタンドを完成形として、サイドスタンドも観戦可能な形として整備する計画です。
12	施設計画	22※	図15 概略図面—メインスタンド※ 客席からタッチラインまでの距離「7.650」 ※バックスタンド及びサイドスタンドも同様	「5.000」に修正 ※バックスタンド及びサイドスタンドも同様 理由 タッチラインまでの距離が短い程、迫力のあるプレーが間近で見られサッカースタジアムとしての価値が向上するため。「5.000」としたのは、国内最近距離のV・ファーレン長崎のPEACE STADIUMを参考とした。短くすることで、プレーの幅を制限する可能性もあるため、県内サッカークラブ(FC琉球、沖縄SV等)の選手から意見聴取する必要があると思料する。	客席からタッチラインの距離「7.650」については、必須要件とする予定ではありません。 客席からタッチラインの距離については、サッカーやラグビー等のスポーツやイベントが開催できる最低限の距離を定めた上で、具体的な距離は事業者の提案に一定程度の幅を持たせることを考えております。
13	施設計画	-	-	試合のない日の賑わいを考えていらっしゃるのは素晴らしいと思いますが、ぜひ直射日光を避けられる地下にフットサル場を設けていただきたいと思います。サッカー好きが日常的に集まれる、そしてそれを見て楽しむちびっ子たちも目を輝かす、それが将来沖縄がサッカー王国になる秘策だと思います。	頂いたご意見については、今後のスポーツ振興の参考といたします。

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
14	施設計画	21～27	(6)断面計画 概略設計における当初整備のキープラン及び断面計画は図14,15,16,17,18、段階整備におけるキープラン及び断面計画は図19,20,21,22,23を想定する。なお、断面計画の検討は次の①から③の条件を設定し検討を重ね作成している。 ①財政負担の縮減及び人的オペレーションの省力化を目的とした、ワンコンコース化 ②スタジアムと広場の一体感醸成を目的とした、バックスタンド及びアウェイ側サイドスタンドのコンコースレベルのグラウンドレベルへの近接 ③必要な諸室を配置するスペースの確保及び、関係者動線と一般客動線の交錯回避を目的に、メインスタンドとホーム側サイドスタンドのコンコースを2階レベルで設置	スタンドの段数および角度については、J1～J3加盟チームのホームグラウンドの中で、新設または改修されたサッカー専用スタジアムのデータを示し、その中で参考とすべきスタジアム事例の写真を添付参照の上で文面を構成いただくのが最も賛同を得られるものを考えており、修正をお願いしたい。	当該断面計画については、整備計画(案)の作成において、これまで県が検討してきた図となります。今後の事業者の募集において、他スタジアム事例を示す必要がある場合にあたっては、写真等の添付参照を検討致します。
15	施設計画	-	-	イメージ図や図面の見せ方 おそらくイメージ図(北側バックスタンド方向からの撮影)やメインスタンド(南側野球場方向)からの図角が、場面ごとに変わってくるため、例えば 「メインスタンド」「メインS」「バックスタンド」「バックS」「ホーム側」「明治橋側」「アウェイ側」「プール側」 のような文言をイメージ図や図面に付していただけませんか。	頂いた意見を踏まえ、修正致します。
16	施設計画	20-21	概略設計における当初整備時の各スタンドの観客席数は、図12の通りであり、メインスタンドは西側、バックスタンドは東側に配置する。	メインスタンドとバックスタンドの配置 かなり議論はあったと推察されますが、 当初整備、段階整備の2段階方式のため、当初整備で南側にメインスタンドを固定配置し、拡張できるバックスタンドを南側に配置した計画と思われます。 元の奥武山陸上競技場のメインスタンドと反対となり、ゆいレールや那覇東バイパスからスタジアムの顔(メインスタンド外壁)が見えづらい、わかりづらいように思われます。 スタジアムへのネーミングライツ導入、広告看板露出も考慮	整備計画(案)のスタンドの配置については、Jリーグスタジアム基準に基づき、メインスタンドを西側としております。 公募におけるスタンドの配置については、事業者から幅広い提案がなされるように、事業者募集条件を検討して参ります。
17	施設計画	29等	-	広場エリアとホーム側サイドスタンドの配置 東西逆サイドに配置され、ホームサポーターの利便性があまり良くないようと思われます。 私の要望 メインスタンド:北側(国場川サイド) ホームサイドスタンド:プール側 大型ビジョン:明治橋側 (アウェイサイドスタンドに設置)	公募におけるスタンド及び広場の配置については、事業者から幅広い提案がなされるように、事業者募集条件を検討して参ります。

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
18	施設計画	第2章「施設整備(建物内機能)」	UD(だれでもトイレ、授乳、カームダウン等)を想定。	建物内に一般開放型フィットネスジムとダンス／チア等のリハーサル室・パフォーマー控室(鏡・吸遮音・可動床、更衣・マイク・シャワー)を常設し、平時は公共利用可／災害時は一時避難に転用できる設備仕様(非常電源・給水)を明記してください。	本整備計画では、現行の記載のとおりとします。なお、スタジアムの諸室機能については、様々な手法が想定されることから、事業者から幅広い提案がなされるよう、事業者募集条件を検討して参ります。
19	施設計画	第2章「運営(民間収益施設)」	平時の利用促進・民間収益施設の整備を検討。	指定管理者制度で民間スポーツクラブを入居させ、家賃(使用料)収入とプログラム供給力を確保。契約条件に県民割／料金上限／年間開館日数／非常時開放／ユース・シニア枠を設定し、公共性×持続可能性を両立してください。	平時の利用促進・民間収益施設による収益向上策については、様々な手法が想定されることから、事業者から幅広い提案がなされるよう、事業者募集条件を検討して参ります。
20	施設計画	第2章「外部空間(広場)」・第7章「賑わい創出」	広場は平時活用・既存イベント継続・分散退場に寄与。	広場を小規模演目の“常設想定”に格上げし、電源盤／音響引込／ケーブルピット／ミニステージ基礎を設計要件として標準化。物販・キッチンカー区画と回遊導線の標準図を整備し、演目→回遊→飲食で滞在延伸＆分散退場を仕組み化してください。	広場エリアの機能や興行時の周辺混雑の緩和については、様々な手法が想定されることから、事業者から幅広い提案がなされるよう、事業者募集条件を検討して参ります。
21	施設計画	第2章「諸室配当(概略)」	1F=競技・運営、2F=コンコース等、上階=VIP・メディア等。	1Fまたは2Fにジム／スタジオ(=リハ室)を明示配当。広場側への直接動線(搬入・避難も両立)を確保し、試合日／非試合日の運用計画(時間帯区分・優先枠)を本文に追補してください。	ご意見を踏まえ、試合がない日もスタジアムと隣接する広場エリアが一体となって賑わいを創出するような表現を追記します。また、スタジアムの諸室機能と動線設計については、様々な手法が想定されることから、事業者から幅広い提案がなされるよう、事業者募集条件を検討して参ります。
22	施設計画	備考(提出者の実務経験)	—	提出者はスポーツクラブ非常勤 約20年従事(運営・安全管理・プログラム設計)。指定管理でのジム入居は、①家賃収入の安定、②民間ノウハウの活用、③継続利用にもとづく賑わいを同時に達成し得るため、計画本文に制度設計の骨子(料金・開館・UD非常時開放・評価指標)を追記ください。	本整備計画では、現行の記載のとおりとします。なお、スタジアムの諸室機能については、様々な手法が想定されることから、事業者から幅広い提案がなされるよう、事業者募集条件を検討して参ります。また、スタジアムの施設利用の制度設計についても、様々な手法が想定されることから、諸室機能の設計又は整備後の諸室規模が確定した後に、利用料金の上限の設定を検討して参ります。

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
23	施設計画	21～27	<p>(6)断面計画 概略設計における当初整備のキープラン及び断面計画は図14,15,16,17,18。段階整備におけるキープラン及び断面計画は図19,20,21,22,23を想定する。なお、断面計画の検討は次の①から③の条件を設定し検討を重ね作成している。</p> <p>① 財政負担の縮減及び人的オペレーションの省力化を目的とした、ワンコンコース化</p> <p>② スタジアムと広場の一体感醸成を目的とした、バックスタンド及びアウェイ側サイドスタンドのコンコースレベルのグラウンドレベルへの近接</p> <p>③ 必要な諸室を配置するスペースの確保及び、関係者動線と一般客動線の交錯回避を目的に、メインスタンドとホーム側サイドスタンドのコンコースを2階レベルで設置</p>	<p>一般的に見やすい観客席の角度は35度程度とされています。しかし現在の設計図面ではホーム、バック、サイド全スタンド前方部分において約26度となっており、非常に見づらい角度になっております。</p> <p>それだけなくサイドスタンドはホーム側の方が高さが低く傾斜が緩い設定(ホーム側約31.5度、アウェイ側約33.4度)となっており、このままでは観戦の満足度が高められないと思います。</p> <p>またサイドスタンド前方部分が低く、ピッチレベルに近すぎるため、Jリーグの興行で広告看板等が掲示された場合、子供が座って観戦する際に視界がさえぎられる可能性があります。</p> <p>よって全スタンドの一階席座席は傾斜角度をもつときつくし、全体を底上げし、コンコースは3階レベルに設置するべきです。</p>	<p>本整備計画では、現行の記載のとおりとします。 座席の傾斜及びピッチの近さ・高さ等の施設設計については、様々な手法が想定されることから、事業者から幅広い提案がなされるように、安全性の確保や観戦環境の向上を考慮した上で、事業者募集条件を検討して参ります。</p>
24	施設計画	20	<p>(5)平面計画 ア 当初整備におけるスタンド配置 概略設計における当初整備時の各スタンドの観客席数は、図12の通りであり、メインスタンドは西側、バックスタンドは東側に配置する。</p>	<p>Jリーグの公表しているJリーグスタジアム基準[2025年度用]において「II. 競技用設備」>「7.ベンチ(1)チームベンチ」の項目において「ホームクラブのベンチは、原則としてメインスタンドからピッチに向かって左側に設置すること」とあることから、北側をホーム、南側をアウェイとしていると推察します。</p> <p>ですが、47ページのとおりに原則を無視してサイドスタンドに屋根を付けないスタジアムにするのであれば、こちらも原則を外してにぎわいエリアを作る、場外面積の広い南側をホーム側にするべきと考えます。</p> <p>実際のスタジアムでも2024年に竣工した金沢ゴーゴーカレースタジアムでは、敷地の形状の都合から、メインスタンド向かって右側がホーム側となっています。</p>	<p>ご意見を踏まえ、整備計画におけるホーム側とアウェイ側の配置に関する記載については、修正致します。 サイドスタンドのホームアウェイのスタンド配置については、事業者から提案がなされるように、事業者募集条件を検討して参ります。</p>
25	収容人数	-	「当初1万人、段階整備後2万人」という数字について	<p>J3のFC琉球の平均観客数は3000人未満である。新スタジアム整備後、平均観客数が伸びるのか不確実な中、当初1万人という数字はJ1規格に必要な数であるのに対し、段階整備後2万人という数字はどのような根拠・理由で算定された数字なのか疑問である。空席が目立つスタジアムよりも観客収容率が高いスタジアムの方が雰囲気も良いし、熱気が感じられ魅力的である。当初整備から15年後を想定する段階整備の実施が不確実な中、当初整備時に全面を屋根で覆われた10,000～15,000人規模のスタジアムを整備するほうが後世に誇れるサッカースタジアムになると思料する。</p>	<p>スタジアムの整備手法については、現状の集客状況を踏まえ当初整備規模、Jリーグスタジアム基準の充足、県民・地域住民の意見を反映した段階的な整備が可能となることから、当初段階においては屋根に覆われた観客席の規模を1万人程度とする計画としております。</p>

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
26	芝	-	-	芝のメンテナンスの専門家を入れて構造を再チェックされてはいかがでしょうか？沖縄で冬の芝を見事に仕上げているのは見たことがあります、炎天下で塩害も強く風通しにも難がありそうなピッチで、管理しやすい方法を専門家とともに考えればきっと他のスタジアムを凌駕したものができるそうです。	頂いたご意見は、今後のスポーツ振興の参考といたします。
27	他との連携	43	(2)壺川駅との連携	(2)壺川駅(追記)及び奥武山公園駅との連携 理由 奥武山公園駅は、壺川駅に次ぐスタジアム最寄り駅であり、多数の観客を分散してスタジアムに誘導及びスタジアムから退場させるための重要な駅であると想料する。そのため、奥武山公園駅の記述も必要と思料する。	頂いた意見を参考に、修正致します。
28	他との連携	44	1 賑わいの創出とスタジアム整備	(追記)(4)那覇バスターミナルとの連携及びバスターミナル－スタジアム間の経路整備 スタジアム周辺の駐車場が不足することが予測されるため、県内各地から来場する観客は、車ではなくバスを積極活用する必要がある。那覇バスターミナルとスタジアム間は、近距離であるため、徒歩での移動が想定される。他県のスタジアムを見ても、公共交通拠点とスタジアム間は、経路案内版や幟などが設置されており、スタジアムへの期待感(ワクワク)を増幅させてくれる。例えば、歩道に「サッカーロード」としてのペイント等を施し、観客を安全に誘導することも有効である。「サッカーロード」周辺の飲食店等と連携することで経済効果も期待できる。	本整備計画では、現行の記載のとおりとします。 頂いたご意見については、今後の参考といたします。
29	他との連携	第7章「賑わい創出」	イベント・民間活力活用で賑わいをつくる。	音楽イベント／Jリーグ・チア／ダンスの全国祭典の開催可能性を見据え、多競技横断で応援チームが集客を牽引する未来を想定。これを日常から支えるリハ室・控室の常設と、地域連携健康プログラム(キッズ～シニア／介護予防)を運用計画に組み込んでください。	運用計画については、様々な手法が想定されることから、事業者から幅広い提案がなされるように、事業者募集条件を検討して参ります。
30	県民・地域住民の参画	第1章「県民と“ともに”育てる」	行政と県民が一体となってスタジアムを育てる、参画の場(ワークショップ等)を設ける方針。	エンタメ実務者(ダンス／チア／音楽／イベント運営)を参画対象に明記し、整備～運用の各段階で定期WS(年数回)＋議事録公開を要件化してください。平時運用(練習枠、屋外小演目、安全管理)の具体を設計に落とし込みます。	本整備計画では、現行の記載のとおりとします。 なお、ワークショップを事業の各段階で実施し、事業者の参加による整備・運営への反映を目指し、県民・地域住民と取り組んで参ります。

Jリーグ規格スタジアム整備計画(案)の意見

NO	項目	ページ	現行文案	修正意見	回答
31	プレイベント提案	-	-	<p>世界から多くのウチナンチュウが帰ってきたときに、沖縄にサッカー留学したいと希望する子どもたちに、地元の子たちにまじってセレクションを受けてもらい、スカウトの機会を与えてみてはどうでしょうか？中学や高校のチームに留学生が入ればウチナンチュウの刺激になり特異でも得意な地域になりそうです。サッカー場整備計画のプレイベントとして考慮してみてください。</p>	<p>頂いたご意見は関係機関と共有し、今後のスポーツ振興の参考といたします。</p>
32	整備地	6	<p>①インバウンドの獲得にも資する新たな観光コンテンツを創出するため、那覇市奥武山公園にJ1公式試合が開催可能なスタジアムを整備する。 ②当該スタジアム周辺にスポーツ関連施設や飲食・物販施設等を誘致し、地域の賑わい創出に資するスポーツ交流拠点を形成する。</p>	<p>建設地が那覇市奥武山公園だと、車社会の沖縄では現状のチームに厳しい結果をもたらす結果にならないか不安である。 まず、奥武山近隣や那覇市民以外の人々にとって、スタジアムにたどり着くまでの公共交通機関が貧弱すぎる現状では観客にとってデメリットが多い様に思える。 仮にバス交通の場合、元のホームタウンの沖縄市からの観戦に赴く場合、本数があまりにも少ない。 行きはまだ良いが帰りはなんと9月の試合のキックオフの場合、エリアにもよるが試合終了まで観戦すると帰路のバスが無いというダイヤになっている。 どんなに観戦がしやすくとも、スタジアムにたどり着くまでが難しい、たどり着いても試合終了まで観戦すると最終運行を逃す運行ダイヤとなっている現状では本末転倒だと思います。 奥武山にスタジアムを作ると、これまで県総に観戦に行っていた人々の多くを観客を失うと思います。 平均観客約2000人のFC琉球、その中のおおよそ100人程度(5%)の大聲を出している熱狂的な人々は良いだろうが、残りの大多数95%の熱狂的でないがサッカーを見たいという想いから集った人々は、観戦を継続しないと思う。 仮にバス、またはモノレールでの乗り継ぎ、いずれを選んでも、仮に沖縄市から奥武山に観戦に行く場合、往復の交通費だけで有料チケットの金額を上回ることになるはず、「無料招待枠での観客」はチームが公開している入場料収入と観客数から推測するとかなりの割合を占めるが、今までチケットを買わず無料で見に来れた人々の多くは、往復の交通費でチケット代金が貢げる金額になるか上回ることに気付いた時、彼らは観戦を続けるだろうか。 那覇近辺在住者を除く無料招待客の多くを失うことが予測できると思う。 もちろん無料客による観客動員による興行を続けることも望ましくないが、チームが人気を獲得し、キングスの様に入場料最低金額が8000円超えても満員になる程のブランドが構築出来までには長い時間がかかると思われる。 現状車社会の沖縄で奥武山にスタジアムを作ることで、多くの人がスタジアムまで見に行く道義を完全に失う可能性を考えて欲しい。水を差す様で申し訳ないが、那覇に作るのを取りやめて今一度建設場所を再考すべきだと思う。ある程度の駐車場は必須だと思う。那覇の奥武山にスタジアムを作ることで現状スタジアムの使用が想定されるFC琉球の息の根を止めることに繋がらないか不安である。</p>	<p>本整備計画は、現行の記載のとおりとします。 県民・地域住民への公共サービスの充実、スポーツ振興に資する施設となる整備・運営に取り組んで参ります。</p>